

OpenStack Foundationは
何をしているか？

Abstract

OpenStack Foundationではボードミーティングが頻繁に行われ、いろいろなことが話されています。しかしそのような話はあまり知られていないと思います。OpenStack FoundationのGoldメンバーである3社の代表が赤裸々に語ります。

本セッションの目的

- OpenStack Foundationとはどういうものかを知ってもらう
 - いろいろなことを考えてちゃんとやっている
 - オープンである
- Goldメンバーに参加する理由を知ってもらう
 - 自社に持ち帰って、参加を検討してもらいたいです！

自己紹介



かねしげ けんじ
金重 憲治

富士通株式会社
プラットフォームソフトウェア事業本部
Linux開発統括部 部長

- オープンソースソフトウェアのコミュニティ協業開発を担当
 - OpenStack, Linux, KVM, Docker, OCI, ...
- 2016年 OpenStack Foundation Board (Gold Representative)
- CNCF Board (Cloud Native Computing Foundation)



自己紹介



やすい たかひろ
安井 隆宏

株式会社 日立製作所
IoT・クラウドサービス事業部
OSSソリューションセンタ センタ長

- OSSのサポートサービス、コンサルティング
- パートナ企業とのアライアンス
- 標準化団体活動、コミュニティ活動

OpenStack Foundation, Linux Foundation, PGEConsなど多数



自己紹介



とりい たかし
鳥居 隆史

NEC

クラウドプラットフォーム事業部

OSS推進センター シニアエキスパート

- OpenStackを中心とした技術サポートとコミュニティ活動を統括
- 日本OpenStackユーザ会ボードメンバー
- 沖縄オープンラボラトリ技術アドバイザー

OpenStack Foundationとは

■OpenStack の普及促進・開発プロジェクトを推進する団体

- 2012年に発足した非営利団体。OSS関連の団体として世界第2の規模
- OpenStack開発コミュニティを支援、普及促進活動
- 個人メンバ(>4万人), プラチナメンバ(8社), ゴールドメンバ(19社)



<http://www.openstack.org/foundation/>

Members

<https://www.openstack.org/foundation/companies/>

Platinum Members

AT&T Canonical HPE IBM Intel
Red Hat SUSE

Gold Members

Aptira CCAT Cisco Dell Dreamhost EasyStack EMC
Ericsson Fujitsu Hitachi Huawei inwinStack Juniper
Mirantis NEC NetApp Symantec UnitedStack Virtuozzo

Technical Committeeの構成

Anne Gentle @Rackspace

Dean Troyer @Intel

Doug Hellmann @HPE

Flavio Percoco @Red Hat

James Blair @IBM

Jay Pipes @Mirantis

Kyle Mestery @IBM

Mark McClain @Akanda

Monty Taylor @Red Hat

Robert Collins @HPE

Russell Bryant @Red Hat

Sean Dague @HPE

Thierry Carrez @OpenStack Foundation

Board of Directorsの構成



- プラチナから8名
- ゴールドから8名
- 個人から8名
- 合計24名

Board of Directorsの構成

Platinum

Alan Clark(SUSE)

Eileen Evans(HPE)

Imad Sousou(Intel)

Mark Baker(Canonical)

Mark McLoughlin(Red Hat)

Tobias Ford(AT&T)

Todd Moore(IBM)

Van Lindberg(Rackspace)

Gold Representative

Alex Freedland(Mirantis)

Anni Lai(Huawei)

Kenji Kaneshige(Fujitsu)

Lew Tucker(Cisco Systems)

Manju Ramanathpura(HDS)

Raj Patel(Symantec)

Robert Esker(NetApp)

Roland Chan(Aptira)

Individual

Allison Randal(HPE)

Boris Renski(Mirantis)

Edgar Magana(Workday)

Egle Sigler(Rackspace)

Kavit Munshi(Aptira)

Monty Taylor(Red Hat)

Shane Wang(Intel)

Tim Bell(CERN)

OpenStack Foundation Staff

Jonathan Bryce Executive Director

Mark Collier COO

Lauren Sell VP of Marketing

Heidi Bretz Director of Business Development

Thierry Carrez Director of Engineering

Todd Morey Creative Director

その他、合計20名強

ボード会議

およそ1ヶ月に1回の頻度で開催（サミットに合わせてF2F）

ボード会議に先立ち、ゴールドメンバ会議で意見集約

主な議題

ミッションステートメントの見直し

Committee/WG活動の審議/承認

(Defcore仕様の承認、Product WGワークフロー、など)

サミット開催計画の審議

新ゴールドメンバ加入プレゼン審議

CommitteeとWork Group

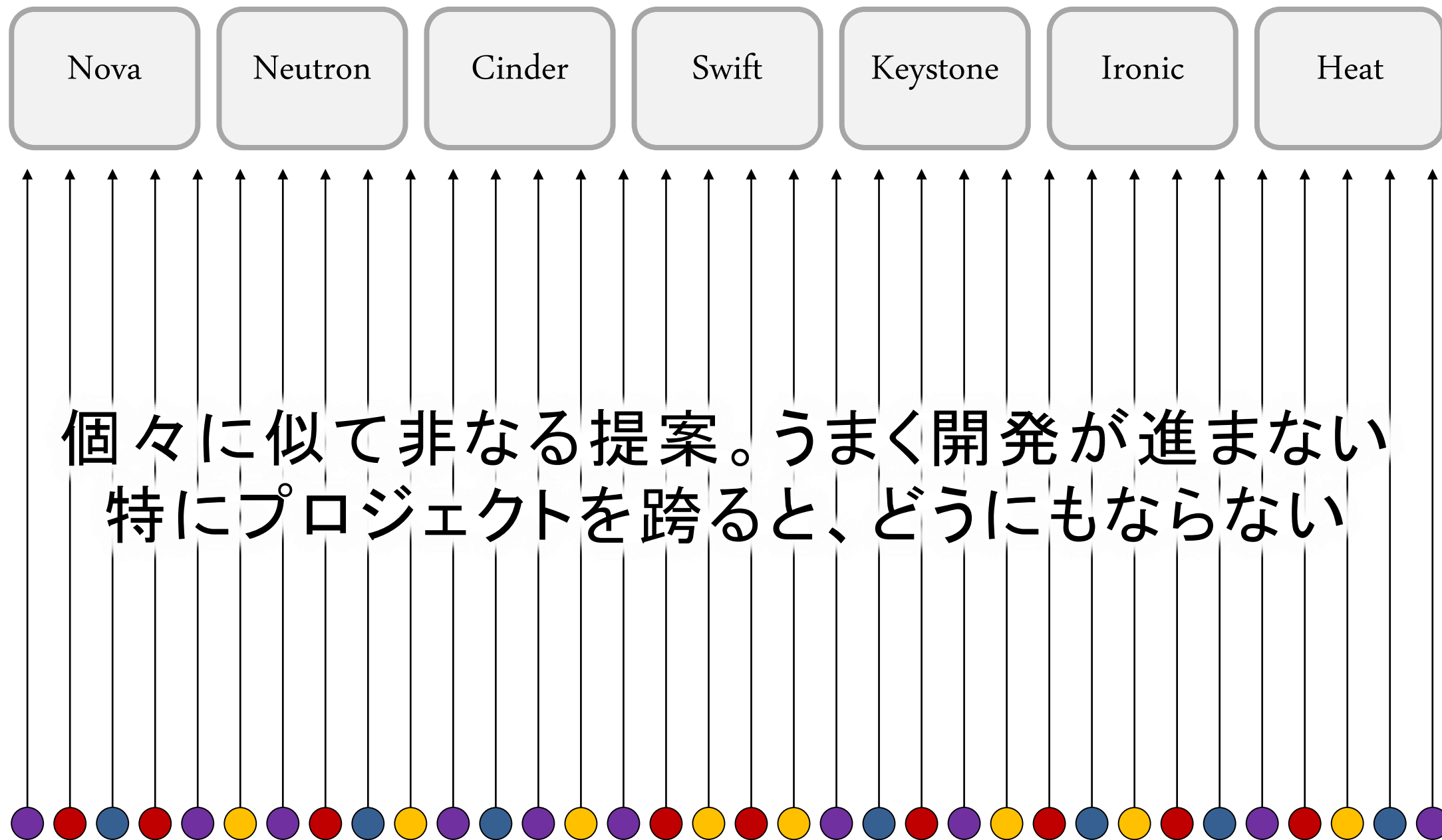
Committee

- Finance
- Compensation
- New Gold and Platinum Member
- Election
- Transparency
- User
- Legal Affairs

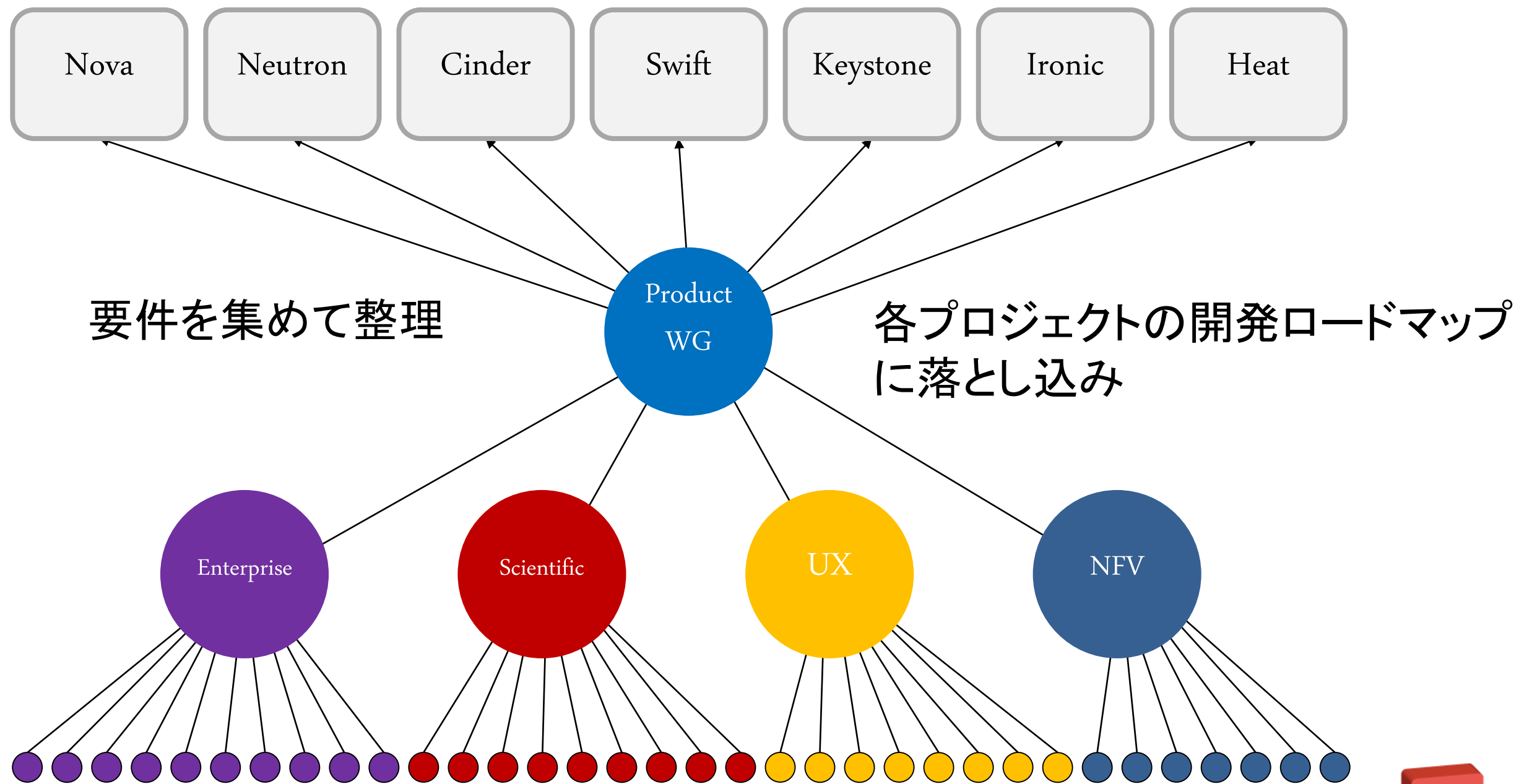
Working Groups

- DefCore
- Diversity
- Product
- Enterprise
- API
- OpenStack UX
- Scientific

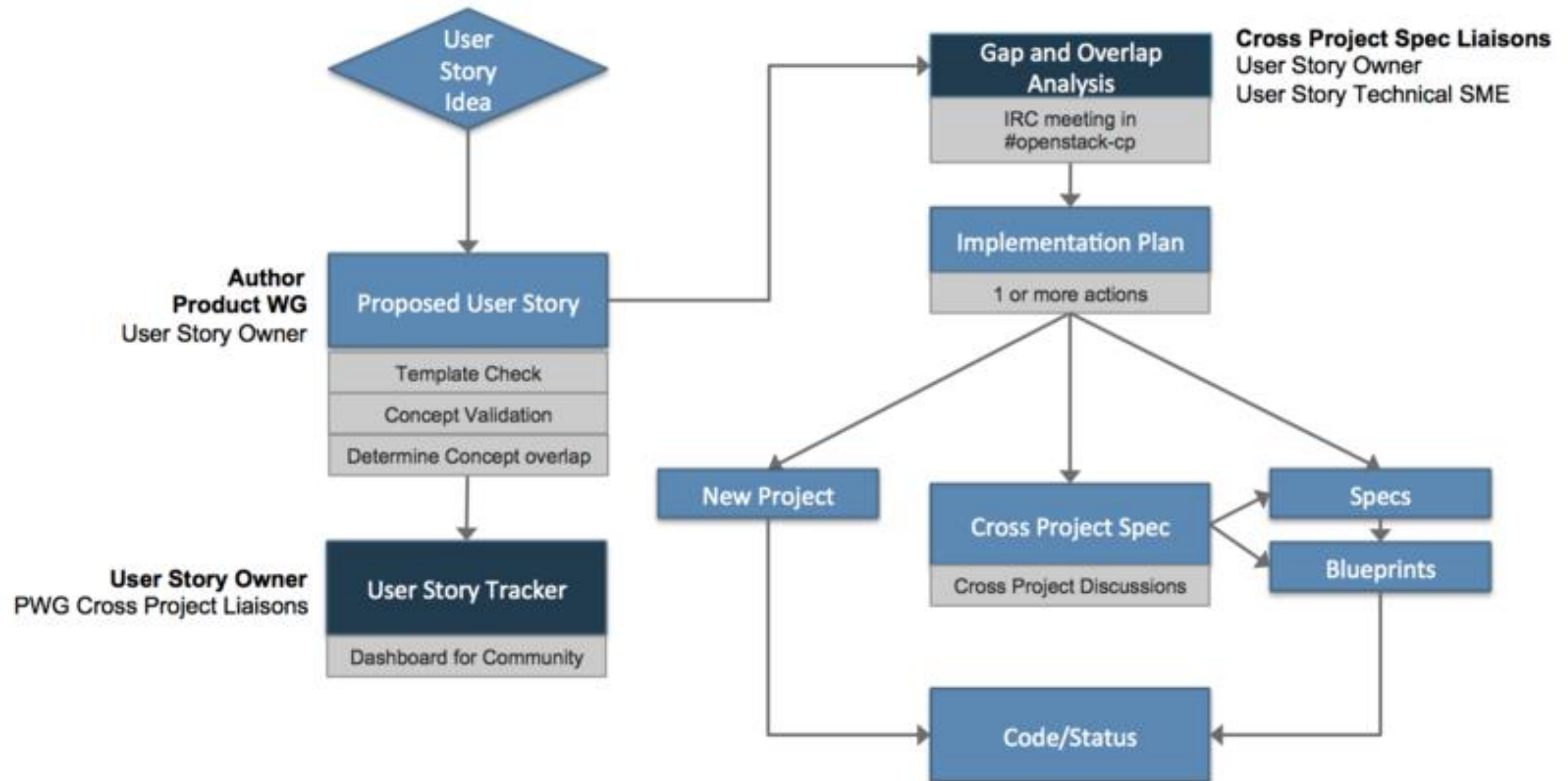
Product WG (背景)



Product WG (構成)



Product WG User Story Workflow



Product WG (活動概要)

参加者: 約20社

会議

- 全体会議(IRC): 週1回
- APACリージョナル会議: 隔週

ユーザストーリー: HA, ベアメタルなど

参加方法

特に登録申請はありません(常にオープン)

- まずは関連する既存のUser Storyを探しGerritでコメント投稿。
- 新規の場合はMLで提案(その後、Gerrit登録)。
- IRCではオープン・ディスカッションから開始するのが良いでしょう

Product WG: <https://wiki.openstack.org/wiki/ProductTeam>

User Story: <http://specs.openstack.org/openstack/openstack-user-stories/>

DefCore WG

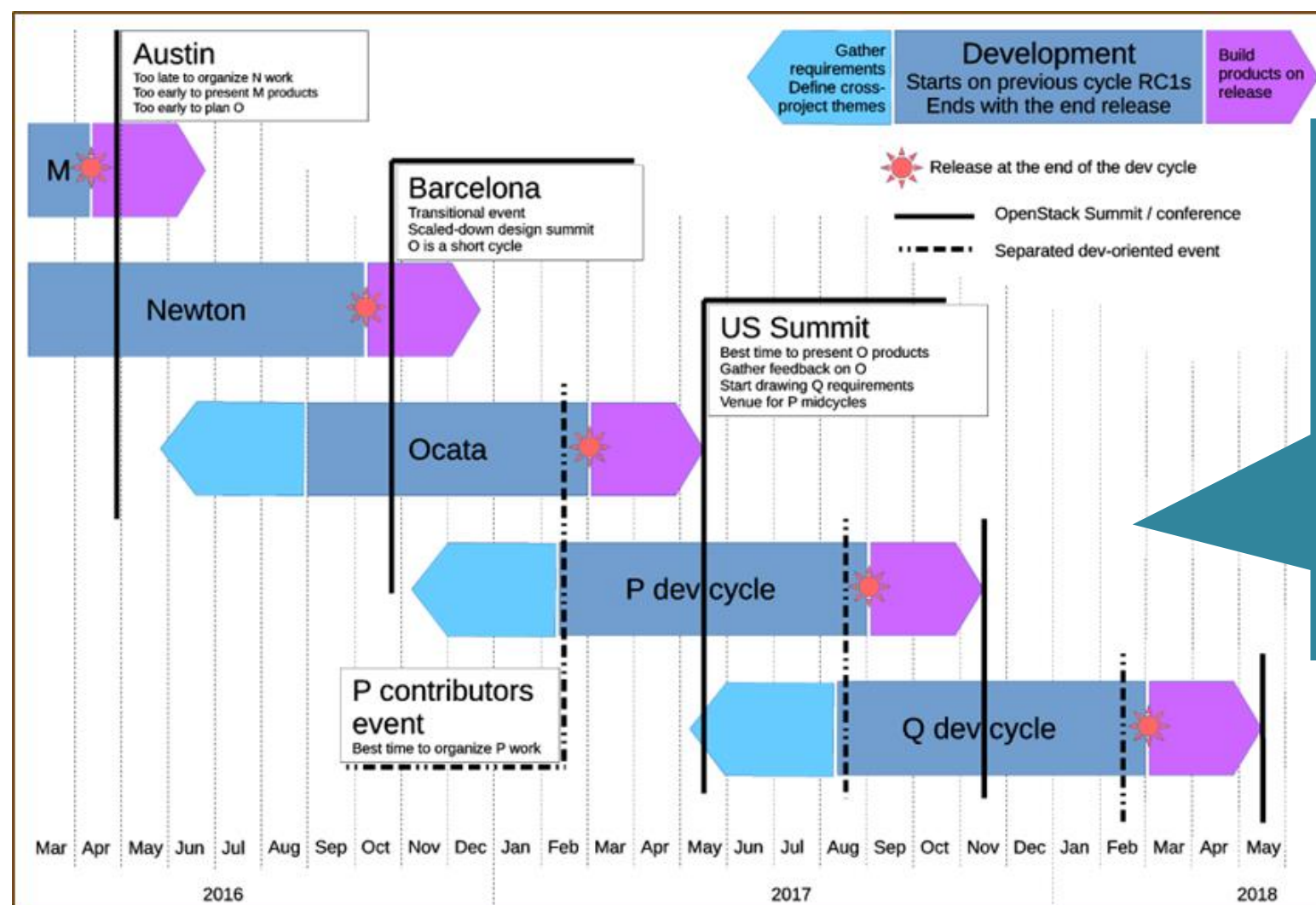
- もともとは数年前、OpenStackのプロジェクトが増えていく中で、「OpenStackと言えるためには何を満たせばよいか？」という疑問に答えるために検討が始まった
- その結果、「OpenStack Poweredロゴ」、「OpenStack Compatibleロゴ」を使うためのInteroperabilityプログラムとなった
<http://www.openstack.org/brand/interop/>



Summit Formatについて

■ OpenStack Summitに対する課題提起

- Summitにいろいろな課題が出てきている。時期、参加者、規模。
- Design Summitの時期が問題。リリース直後で、ディストリビュータのエンジニアは多忙。今後の課題を話し合うには次のリリースが近くて実質できない。
- リリースの中間にSummitをもってくる案を出してきた。



- 開発サイクルを前倒しし、サイクルの中間にSummitを持ってくる
- Pサイクルから移行するため、Ocataサイクルは少し短くなる

2016年のフォーカス領域

Team Activity – Four focus areas

- **Interop** – How do we deliver a consistent experience for app devs? How are deployment decisions impacting interop? Are snowflakes the problem? How do we embrace and kill shade?
- **One Platform** – How do we truly support containers and bare metal under a common API with VMs? (Ironic, Nova, adjacent communities e.g. Kubernetes, Apache Mesos etc)
- **NFV & Telecom** – How do we make sure Neutron & Nova teams are aligned and moving quickly (to enable success + prevent forks etc)? How do we best embrace telecom operators?
- **Vanilla Ice** – Stop. Collaborate and Listen. Culture is critical and could be our biggest asset or stumbling block. Are we falling down in welcoming new contributors & working with adjacent projects?



ゴールドメンバになるには

1. 申し込み

- <https://www.openstack.org/join>
- 収益 (Revenue) の0.25% or 最大US\$200K

2. 事前準備

- New Gold and Platinum Memberが支援

3. プレゼン審査

- ボード会議にてプレゼン審査、即日結果発表
- 即日ゴールドとしてロゴ掲載 (正式就任は次の1月)
- プレスリリース

4. サイン

ゴールドメンバーのメリットは？

直接的に言うと...

ボードメンバー選挙の選挙権を得られる

ボードメンバーに立候補できる

なぜ、ゴールドメンバになったか？（富士通）

「グループ国内外すべての社内システムを次世代クラウド基盤へ刷新」(2015年2月発表)

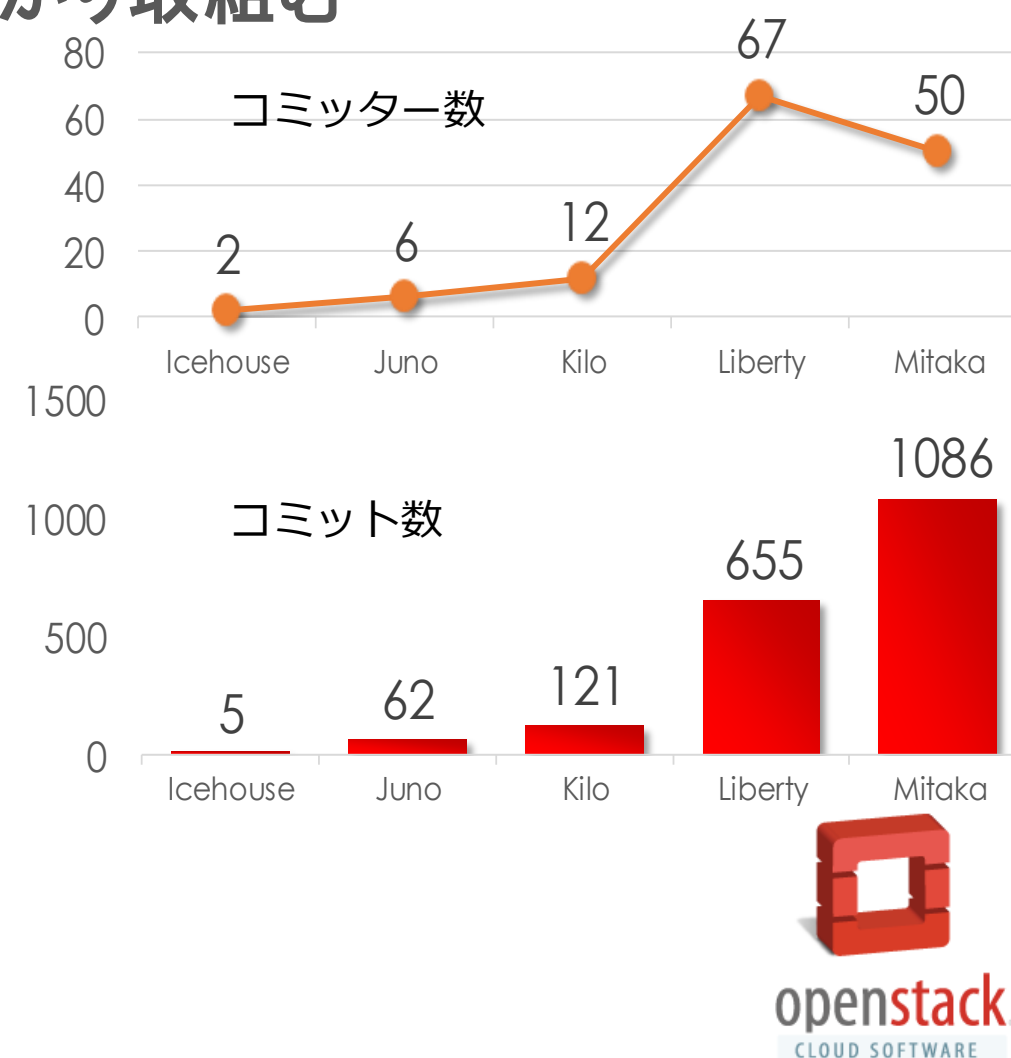
- OpenStackベース
- 640システム、13,000サーバ、社員約16万人、5年以内

コミュニティの一員としてOpenStackの成長にしっかり取り組む

- OpenStackの成長は富士通の成長

開発、エコシステム拡大への貢献を強化

- 2013年Corporate Sponsorsとして参画
- 2015年8月 ゴールドメンバとして参加
- 2016年1月 ボードメンバ就任



なぜ、ゴールドメンバになったか？（日立）

OpenStackへのDiversityを呼び込む

OPENSTACKユーザ数の拡大

- グローバルへの展開
- エンタプライズカスタマ
- パートナエコシステム

テクニカルコントリビューション

- コードコントリビューション
- ホワイトペーパー
- OpenStack堅牢化

NONテクニカルコントリビューション

- OpenStack知名度の向上
- イベントスポンサー
- ミートアップの企画・参加

エンタプライズ適用に向けた、安定性、既存システムとの連携にフォーカスして活動

OpenStack Foundationへの参画

- 2013年11月 ゴールドメンバとして参加
- 2016年1月 ボードメンバ就任

なぜ、ゴールドメンバになったか？（NEC）

OpenStackコミュニティの健全な発展

- 健全なコミュニティがあってこそ、利用価値が高まり、ビジネスにもつながる
- コミュニティ活動のサポート



日本・アジアに目を向けてもらう

- NECは日本ベンダーとしては最初にGoldメンバーになり、FoundationのDiversityの足掛かりとなってきた
- OpenStack Summit Tokyoの誘致への影響力